

聖書箇所：ルカの福音書 6章 46～49節

説教題：土台を据える

### 1 土台は見えないが

私たちが家を見るとき、たいていは土台から上の建物を見ます。家の形、壁の色、窓の大きさ、庭にはどんな花が植えられているかを見て、「お宅の家はすばらしいですね」とほめるでしょう。けれども、「お宅の家は立派な土台を据えていらっしゃるね」と言うことはまずありません。人が見るのは土台ではなく、むしろ土台の上に立っている家です。

ところが、大きな災害が襲ってきたときに初めてその家の真価が明らかになります。たとえ目に見える外見が立派でも、土台が貧弱なら、あっという間にながされ、跡形もなくなる。一方たとえ外見は目立つわけでもなく、ぱっとしないと思われた家でも、土台がきちんと据えられているなら、しっかりと立っていられる。これは大きな違いです。

私たちはこの数ヶ月間、テレビや新聞などで津波や川の氾濫、大雨によって家がながされたり、壊されたりする光景を何度も繰り返し見てきましたから、このことは身にしみて実感しています。ですからここでイエスが語っている家のたとえは、そのとおりだと受けとめることができます。

イエスは家の土台というたとえをつかって、私たちが生きていく上でも同じように土台を据えなければ大変なことになると教えています。土台は大切だとはわかります。でも土台を据えるとはそもそも何をすることなのか。そして土台を据えるためにはどうし

たらいいのか、そのふたつのことを考えていきます。

### 2 土台を据える

まず最初に、土台を据えるとはいったい何をすることなのか。そのところから出発します。それはイエスのことばを読むとすぐにわかります。47、48節です。「わたしのものに来て、わたしのことばを聞き、それを行う人たちがどんな人に似ているか、あなたがたに示しましょう。その人は、地面を深く掘り下げ、岩の上に土台を据えて、それから家を建てた人に似ています。」

イエスのもとに行き、イエスのことばを聞き、その聞いたとおりに行う人たち、そのような人たちこそ、土台をきちんと据えている人たちであると言います。

それもかなり念入りな土台の据え方です。「地面を深く掘り下げ、岩の上に土台を据える」と表現しています。普通家を建てる時、よっぽどの軟弱な地盤でない限りここまでしません。堅い岩盤まで達するコンクリートの柱を打ち込むのは、ビルのような大きな構造物を建てる場合です。ですから「地面を深く掘り下げ、岩の上に土台を据える」というのは、かなり大がかりでしっかりとした土台です。

イエスのことばを聞き、聞いたとおりに行うことがしっかりとした土台を据えることだと言われます。

### 3 何を行うのか

(1) 「主よ、主よ」と呼ぶことではない

しかし、どうでしょうか。「聞いただけでは足りない。行わなければ意味がない。行動しなさい。」こう言っているようにも聞こえます。疑問に思いませんか。私は思ってしまう。「信じるだけで救われます」と言われたはずなのに、結局行いということなのか。反発したくなります。

結論から申し上げれば、安心していただきたい。イエスは行いの信仰を求めているのでは決してありません。では何を求めておられるのか。

その事を次に考えます。私たちは何をすべきなのか。

まず「こうしてはいけません」という失敗例から見ていくとわかりやすいでしょう。46節。「なぜ、わたしを『主よ、主よ』と呼びながら、わたしの言うことを行わないのですか。」

私たちは、「主よ、主よ」と呼ぶ人を見たら、おそらくこう思うでしょう。「この人は信仰深いのだろう。私もこうしなければならぬのかしら。」しかし主は言われます。「主よ、主よ」と呼んでも、もし聞いたことを行わなかったなら、それは何の意味もない。「主よ、主よ」と信仰深そうに語ったり行動すればいいと思うなら、それは的はずれな考えですよ。では、どうすればいいのか。もう少し掘り下げていきます。

(2) 自分の敵を愛せますか？

考えるヒントがいくつかあります。例えば27節。イエスはこう命令されました。「あなたの敵を愛しなさい。あなたを憎む者に善を行いなさい。あなたをのろう者を祝福しなさい。

あなたを侮辱する者のために祈りなさい。」あるいは37節。「さばいてはいけません。そうすれば、自分もさばかれません。人を罪に定めてはいけません。赦しなさい。そうすれば、自分も赦されます。与えなさい。そうすれば、自分も与えられます。」

イエスは、これらのことを行いなさいと言われます。

しかしどうでしょう。皆さんは自分の敵を愛せますか。少しは愛しているつもりかもしれませんが。あるいは、以前に比べたら、ずっと愛せるようになりましたと、言うかもしれません。しかし、イエスの命令はそんな中途半端なことではありません。こう言うのです。

「彼らに良くしてやり、返してもらうことを考えずに貸しなさい。」言い換えれば、見返りを求めることなく完全に与え尽くしなさい、そのような完全な愛で敵を愛しなさい、ということです。

正直な方は、自分の敵を愛さなければと思い、努力しようとします。そしてこう言います。「私はこれだけのことをして敵を愛しました。私はこれだけ相手のことを我慢して、愛を現しました。」

非常に立派なことをしたと自分では思っています。でも本当に敵を愛したのでしょうか。こういうことはなかったですか。こちらは一生懸命愛しているつもりでも、あるとき相手から理不尽なことを言われたり、冷たい仕打ちを受けたことはなかったですか。その時どう反応しましたか。むかつとしましたか。ひとこと言いたくなりませんでしたか。実際に怒りをぶつけたこともあったのではないですか。

イエスは言われます。「彼らによくしてやりなさい。返してもらうことを考えずに貸し

なさい。」どんなひどい仕打ちを受けても、むかつと腹を立ててなならないと言っています。

そんなことができますか。少なくとも私はできません。とてもイエスが求めているような完全な愛で敵を愛することはできません。

### (3) 悪い倉から悪いものを取り出す者

イエスのことばはそこで終わりません。とどめを刺すように、45 節でこうも言われます。「良い人は、その心の良い倉から良い物を出し、悪い人は、悪い倉から悪い物を出します。なぜなら人の口は、心に満ちているものを話すからです。」

自分は良い人間か、それとも悪い人間か。それはすぐに見分けがつかず、口から出るものを見ればすぐわかる。何を語っているかで、その人の心の中にあることが全部わかるからです。自分がしゃべることばは全部良いことばですと自信をもって言える人がいるのでしょうか。むしろ、ことばで人をつまづかせ、ことばで人を傷つけ、ことばで人を悲しませてきた私たちではなかったですか。

それでも中には、「私は精一杯自分の敵を愛しています。イエスのみことばに従っています」と言う方もおります。一見すばらしい信仰に見えます。しかし本当にそうなのでしょうか。

「私は精一杯自分の敵を愛しています。」もしそういう方がいたとするなら、どこか無理をしているように感じ、心配になります。そう言わないと、神に嫌われてしまうのではないか。こうでも言わないと、自分はクリスチャンとして失格者になってしまうのではないか。そんな恐れがどこかにあって、それでこんなことばを無理に言うてはいなかつ

たか。

イエスは、私たちに無理をしてでも信仰深くあれと言われたのですか。努力して、行いによって、しっかりした信仰者になれと命じられたのでしょうか。もしそう思っておられたのなら、まったくの誤解です。

### 4 自分の姿を映し出す鏡として

意外に思われるかもしれませんが、イエスは私たちにできそうもないことを、これでもかこれでもかと何度も命じていたのです。山にたとえてみましょう。すぐに登れるような山ならがんばって登ろうとします。しかし、イエスが提示している山はそんな山ではありません。どんなにすばらしい体力とテクニックと判断力と経験を持ったエキスパートでも絶対に登ることができない山です。それなのに「この山に登れ」を言われる。なぜそんなことをするのでしょうか。私たちに気がついてもらいたいからです。

このことを鏡にたとえるとわかりやすくなるかもしれません。私たちは、毎朝鏡を見て自分の本当の姿を見て知っているつもりです。しかし私たちが持っている鏡は、自分に都合のよい姿しか映し出しません。

それとは反対に、イエスが差し出す鏡は、本当の姿を映し出していきます。イエスが語るみことばを聞いたとき、ぱっと自分の本当の姿が見えてきます。そこに何が見えるか。美しい自分の姿ですか。いいえ、醜い姿です。それを見て皆さんはどう思いますか。目をそらしますか。それは自分ではないと言い張りますか。でも、イエスは求めています。あなたはこの鏡を見なさい。そこに映っている自分の姿を確かめなさい。見つめなさい。目をそらさないでいなさい。

自分の姿を見てどう思いますか。嬉しいですか。そのような人はいません。悲しくなります。泣きたくなります。自分は美しいと思っ込んでいたのに、どうしてこんなに醜くなったのかと悲しむはずです。イエスが求めていたのはその事だったのです。それが実は聞いて行うことだったのです。

土台を据えるとは何だろうかと考えてきました。信仰深い者になるために努力することかと最初は思っていました。まったく違いました。非常にシンプルです。自分の姿をイエスが差し出してくださる鏡に映し出し、そこに映っている本当の姿に向き合いなさい。神はどこにいますか。

イエスはこう語っていました。

「貧しい者は幸いです。神の国はあなたがたのものだから。いま飢えている者は幸いです。やがてあなたがたは満ち足りるから。いま泣く者は幸いです。やがてあなたがたは笑うから。」

神は、悲しむ者ともおられるではないか。神は何をしてくださいますか。やがて満ち足りるようになると約束される。神はどこに導かれますか。神の国に招いてくださる。いま悲しくて泣いている者に、神はどうしてくださるのですか。やがて笑うようになるからと励ましてくださる。

鏡に映っている醜い自分の姿。こんな私を神は愛してくれないと思いますか。いいえ、神は私たちを愛し続けます。見返りを求めません。どんなにひどいことをしても、あわれみは尽きません。さばこうとしません。罪に定めません。いやこの方が、さばきにあわれた。この方がご自分のことを罪に定められた。

土台を据える信仰生活。いままで、活動的なクリスチャンの姿や、輝くようなすばらし

い理想のクリスチャンを想像していたかもしれせん。

むしろ逆です。目立ちません。賞賛はされません。人目につきません。でもそれでいいのです。だって土台とはそんなものなのです。

周りの人たちは、いろいろなことを言うかもしれません。「どうしてあなたはいつまでもなにもしないのか。クリスチャンは、もっと努力して前進していかなければならない。」

そんなことばを聞いても焦る必要はありません。私たちはがすべきことはただひとつです。イエス・キリストが教えてくださる鏡に自分の姿をうつし、主の救いを待ち望んでいく。そのようにして土台をこつこつと据えていだけなのです。

私たちの教会は2011年4月より、今日の箇所と並行しているマタイの福音書7章24節のみことばを掲げて歩んできました。それから半年あまりが過ぎました。改めてこのみことばに立ち返り、注がれている恵みを覚えたいと願います。